

目的

本研究所は、本学の人間発達科学をテーマとする学内教員を組織し、人間の発達と教育に関する総合的、国際的な研究拠点を構築することをめざして、2016年4月に設置されました。

人間発達に関する基礎研究と実践研究・臨床研究を結びつける中から、革新的・効果的な成果発信と提言を行ない、子ども達の教育的・社会的格差の解消を志向する研究などを含め、少子化を質的・量的に改善する施策や、子どもから青年期以降までの発達の質の向上に向けた施策の策定に貢献することを目標としています。

人間発達教育科学研究所 構成メンバー

所長：教授 菅原ますみ(発達精神病理学)

教員：教授 宮里暁美(保育学)
准教授 上原 泉(発達心理学)
特任講師 岩藤裕美(発達臨床心理学)
特任講師 古志めぐみ(発達臨床心理学)
特任講師 内海緒香(教育心理学)

研究員：

教授 大森正博(消費者経済学)
教授 大森美香(健康/臨床心理学)
教授 小玉亮子(教育学)
教授 坂元 章(社会心理学)
教授 坂本佳鶴恵(文化社会学)
教授 篁 倫子(発達臨床心理学)
教授 浜口順子(保育学)
教授 浜野 隆(教育開発学)
教授 平岡公一(社会政策論)
教授 耳塚寛明(教育社会学)
准教授 青木紀久代(発達臨床心理学)
准教授 伊藤亜矢子(学校臨床心理学)
准教授 刑部育子(幼児教育学)
准教授 富士原紀絵(教育方法学)
助教 松島のり子(幼児教育学)

事務局：

特任アソシエイトフェロー 田村恵美(教育学)
特任アソシエイトフェロー 松本聡子(環境心理学)
アカデミックアシスタント 猪股富美子(メディア社会学)



お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

Tel&Fax: 03-5978-5539

E-mail: info-iehd@cc.ocha.ac.jp

URL: <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/>

お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所 Institute for Education and Human Development



健やかで活力ある人生を送るために
子ども期からの「しあわせ」を考える
—人間発達教育科学研究所による
研究と実践—

<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/>



組織と研究内容

「教育・保育実践研究部門」の研究事業

教育実践研究

子どもの実態や国内外の教育政策に関する動向を踏まえた現代的課題にこたえる教育方法のあり方の研究を進めるとともに、初等・中等・高等教育の各学校段階の接続を有効にするシステムやカリキュラムの開発・研究を大学との連携のもとで附属学校園を中心に行ないます。

保育実践研究

乳幼児期の保育・教育の質向上、保育者の資質・能力育成、地域子育て支援の開発に関する研究を統合的に、学内の乳幼児教育施設(附属幼稚園、こども園、ナーサリー)を初め地域との連携も図りながら推進し、乳幼児教育カリキュラムおよび社会人プログラムの開発、評価および発信を行ないます。

「人間発達基礎研究部門」の研究事業

発達追跡研究

子ども期の家庭の経済的状況、家族関係、メディアなどの養育環境が、子どもの健康や発達、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)に及ぼす短期的・長期的な影響に関する追跡研究、思春期・青年期の健康行動の発達など心身の健康や発達に関する基礎的研究を展開します。

保育・教育格差研究

子どもに供給される保育・教育にあらわれる格差とその発達への影響に関する長期追跡研究、アジア・アフリカを中心とした国際比較研究を実施します。生涯発達に及ぼす社会的格差の問題について検討を行ない、子ども達の教育的・社会的格差の解消に向けた提言を行ないます。

「発達臨床支援研究部門」の研究事業

発達障害児/者への支援研究

発達障害(自閉症スペクトラム、注意欠如多動症など)を有する子どもや青年への支援に関する調査研究や、教育現場及び地域における支援プログラムの開発研究を行ないます。

ひきこもり支援研究

東京都の委託事業である“ひきこもりサポートネット”の運営と、ひきこもりに関する調査研究を行ないます。

人間発達教育科学研究所の取り組み

健やかな育ち

健やかで活力と意欲ある子どもたちの育成

【研究テーマ例】

- ① 保育の質の向上(認定こども園・ナーサリー・幼稚園)
- ② 養育格差・教育格差是正への提言
- ③ 子どもの健康・発達に与えるメディアの影響性の解明
- ④ 発達障害児への対応策の提案

活力ある暮らし

QOLの向上と健康寿命の延長

【研究テーマ例】

- ① 親のメンタルヘルスの健全維持、良好なワークライフバランス等ペアレンティングのあり方に関する提案
- ② ひきこもり等臨床支援プログラムの開発
- ③ 成人期前期の社会的格差に関する社会科学的解明

ポジティブエイジングを目指して健康長寿を実現

【研究テーマ例】

- ① 高齢者の生活環境の改善に関する提言
- ② 祖父母世代の次世代育成機能の解明
- ③ 中高年期の社会的格差に関する社会科学的解明

元気な老い

研究成果の発信

学術的論文・著書の公刊を中心に、研究成果を積極的に発信し、施策の策定に貢献します。

公刊された論文・著書に基づくプレス・リリースや年1回の成果報告会、研究所年報を発刊します。専門家や現職者を対象とした、当研究所所属のスタッフによるセミナーや講習会の開催、一般市民を対象とした講演会の開催、一般書の発刊も積極的に行なっています。

